

一般国道49号猪苗代拡幅「^{いなわしろ}金^{かねまがり}曲^{まがり}バ^{まがり}パス^{まがり}区^{まがり}間」における道路景観整備の取り組み

～道路景観の保全と創造～

東北地方整備局 ^{こおりやま}郡山国道事務所 ^{きたかた}喜多方出張所 ^{まつもと}松本 ^{あきら}章

1. はじめに

一般国道49号猪苗代拡幅事業を展開する当地域は、磐梯山・猪苗代湖等の豊かな自然に恵まれた観光地となっている。

当事務所においては、地域の特性を生かし優れた景観の保全を図るため、これらに配慮した道路整備を検討し進めているところである。

ここでは、昨年開通した金曲バパス（以下金曲BP）における道路景観整備の取り組みについて報告するものである。



図-1 位置図

2. 事業の概要

金曲BPは一般国道49号猪苗代拡幅（延長 L=7.3km）のうち人家連担部を迂回する延長約 1.8km、暫定幅員 14.5m の道路である。特に観光期の渋滞緩和および沿道環境の改善による歩行空間の確保を目的に整備され、昨年 11 月 21 日に開通した。

3. 景観整備の背景

福島県では、平成 10 年 3 月に地域の特性を生かし優れた景観の保全と創造を図り、美しい県土の形成に資することを目的とした景観条例を制定した。

また、平成 12 年 3 月には、磐梯山・猪苗代湖周辺地域を景観形成重点地域に指定し、山と湖の眺望に配慮した景観形成に取り組んでいる。

こうした背景から当事務所では、道路整備においても「調和」「眺望性」「もてなし」の視点から景観整備について取り組んでいるところである。

4. 道路景観整備検討委員会の設立について

当事務所では国道 49 号猪苗代地区において景観整備を計画するため平成 11 年度より「猪苗代地区道路景観整備検討委員会」（表-1 以下委員会）を設立し検討を行っている。委員会では「道路景観整備基本計画」が策定され、その後、平成 15 年 1 月に景観整備状況についてフォローアップを行い今後の方向性について検討する「猪苗代地区道路景観整備追跡検討委員会」（以下追跡委員会）が設立された。

これまで委員会 3 回、追跡委員会が 4 回開催されており、以下に委員会等により決定された事項（金曲BP 関連）について整理する。

表-1 猪苗代地区道路景観整備検討委員会

委員名簿(平成11年6月23日現在)		
	委員氏名	役職
委員長	佐藤 平	日本大学工学部教授
委員	堀 繁	東京大学アジア生物資源環境研究センター教授
委員	時野谷 茂	会津大学短期大学部助教授
委員	小林 キヨ	猪苗代婦人連絡協議会副会長
委員	本多 実	(社)猪苗代観光協会副会長
委員	渡部 実寿	(社)猪苗代青年会議所副理事長
委員	門田 修	NTT東日本福島支店設備部部長
委員	佐藤 敏雄	東北電力株式会社津若松支店副支社長
委員	津金 要雄	猪苗代町長
委員	稲崎 義家	福島県会津地方振興局長
委員	小関 重徳	福島県警察本部猪苗代警察署長
委員	野地 陽一	福島県生活環境部参事(兼)県民生活課長
委員	菅野 光夫	福島県土木部都市局都市計画課長
委員	三浦 真紀	建設省郡山国道事務所長
委員	海田 久満	福島県土木部道路建設課長
委員	佐藤 正人	福島県土木部道路維持課長
委員	佐藤 清一	福島県喜多方建設事務所長

【委員会等での決定事項について】

- 植栽整備を行い草本類で緑化する。また視覚に入る緑の量を出来る限り増やす。
- 将来4車線拡幅部に植栽帯を設け、自然な起伏によるソフトショルダーとする。
- 眺望を阻害しない完全収納型防雪柵の採用
- 道路附属物等のデザインに統一感を持たせ眺望性に配慮する。
- 地下横断歩道上屋のデザインを自然景観と調和させる。

5. 景観整備計画について

5. 1 コンセプト

金曲 BP においては、「磐梯山・猪苗代湖への眺望を活かした気持ちの良い走行を楽しめる空間整備」をコンセプトに以下の点について検討を行った。

- ① 緑視量（視覚に入ってくる緑の量）を出来る限り増やす→マウンドアップ（築山）
- ② ソフトショルダーは、周辺景観と一体となった自然らしく印象深い多様な地形を創る
→ラウンディング（丸み）、アンジュレーション（起伏）
- ③ 磐梯山等の「遠景」と田園・樹林などの「近景」の眺望を大切にする
→景観配慮型デザインによる眺望阻害の防止

5. 2 与条件と課題について

コンセプトを踏まえ景観整備計画を検討する上で課題となる以下の3点について条件整理を行った。

- ① 道路上から見える構造物の取扱い
→防護柵類,照明および信号,地下横断歩道上屋,防雪柵
- ② 歩車道間の植栽および将来4車線拡幅部植栽帯への植栽樹種の選定
→眺望性、耐寒性、維持管理
- ③ 植栽帯を基本とする断面形状
→植栽と遠景・近景の眺望がもたらす断面効果の検討

5. 3 詳細検討について

コンセプトをもとに眺望の変化から道路の景観区分を4つのタイプに分類し、それぞれの範囲・特徴を整理しイメージパースおよび模型の作成を行った。

このうち景観区分の1例として断面効果の検討について、および5.2で述べた課題等への対応について以下のとおり紹介する。

【パース・模型作成】

今回の特徴として緑視量を増やすため植栽の基盤（マウンド）を盛り上げ、さらに単一の風景に強弱を付けるためラウンディング（丸め）・アンジュレーション（起伏）の設置を行った。

また、完成形をイメージすると共に、施工性を視野に入れパース・模型（図-2,3）を作成した。

※パースおよび模型は施工性等も含め検討するもので実際の完成形と若干異なる。

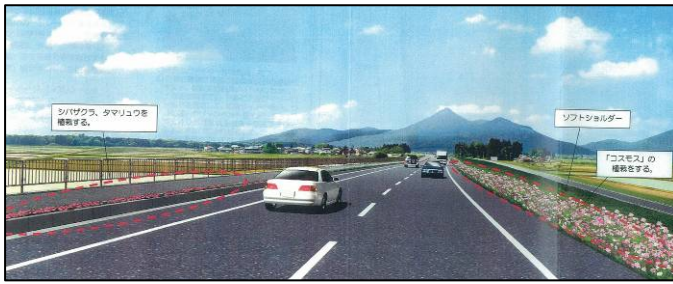


図-2 イメージパース

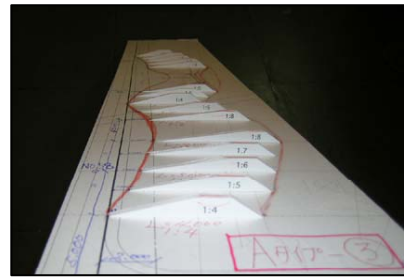


図-3 盛土状況を示す模型

【景観区分 検討例① 低盛土区間で両側の植栽帯が利用可能な断面】

- ・左側植栽帯は緑視量を増やすためにマウンドアップとし、右側植栽帯はほぼフラットな法面とする。
- ・両側へ緑を確保し、植栽帯をほぼフラットで同一の幅に整備する事でドライバーの視線を近景・遠景同時に捉える効果を持たせる。これにより景観を面で捉える効果がある。

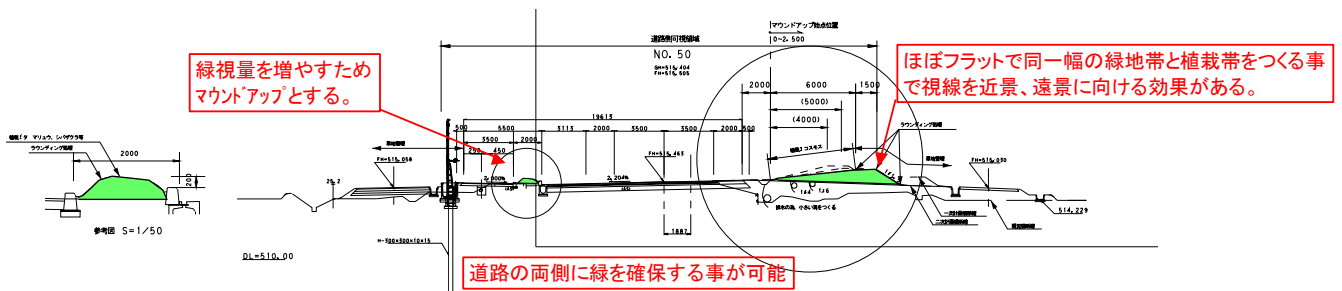


図-4 景観区分 例①の断面計画

【道路から見える構造物等について】

- 防雪柵：完全収納とし折り畳んだ状態がドライバーの眺望を阻害しないものとした。
- 転落防止柵：縦柵型とし眺望を遮断しないものとした。（※橋梁部は横柵型）
- 地下横断歩道：屋根に丸みを持たせ柔らかな印象を持たせ、色彩は控えめな薄茶を採用し周辺の自然との調和を図った。



図-5 完全収納型防雪柵



図-6 転落防止柵



図-7 地下横断歩道上屋

【樹種の選定について】

樹種選定については眺望性を配慮し樹高の低い草本類を選定した。また当地域は積雪寒冷地である事から耐寒性や凍結抑制剤の影響に優れたものとし、さらには維持管理（雑草対策）を考慮し委員会等で検討した結果、コグマザサおよびコスモス（図-8）を選定した。



図-8 コグマザサとコスモス

6. 施工および完成状況

ランディング・アンジュレーション等の設計では、5m 間隔で断面変化を持たせる計画であったが施工性および管理を考慮し10m 間隔に変更した。

ソフトショルダーは4車線拡幅部の路床として利用可能な材料を使用し、敷均した後に法面整形用のバケットによりアースワークを行った(図-9,10)。植生工についてはコスモスの種子を客土吹付けにより実施している。

また、計画段階で行ったスケッチと完成状況の比較を図-11に示す。コンセプトにもとづき眺望の変化に合わせた各段面の持つ効果を十分に引き出す事が出来たと考える。

さらに眺望に配慮した道路付属物も非常に効果を発揮している。以上より当バイパスはいくつもの景観を楽しむ事ができる。



図-9 ランディング 施工状況



図-10 植生実施状況

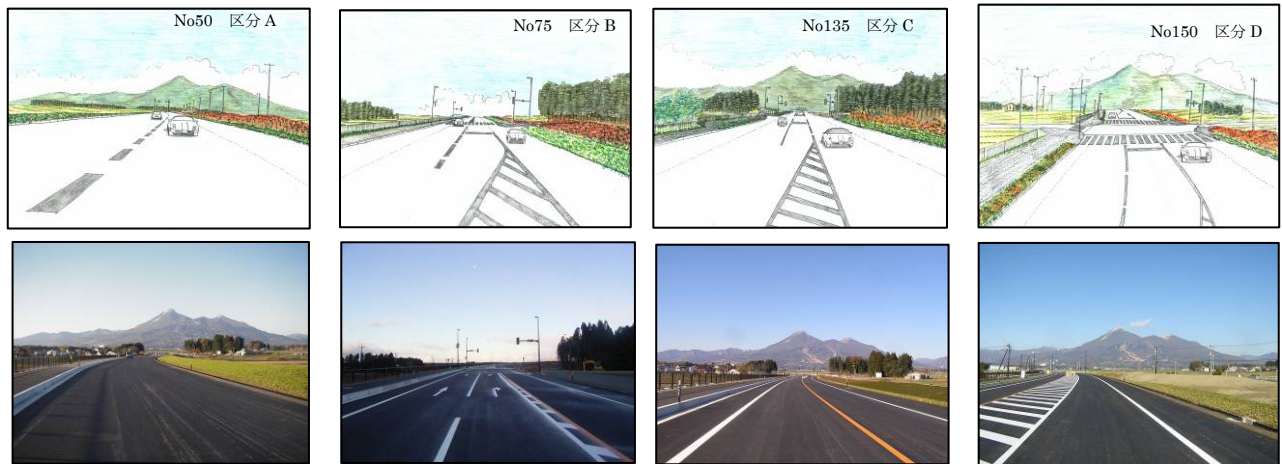


図-11 スケッチと完成状況の比較

7. 今後の取組み

金曲 BP は磐梯山を望む絶好の眺望点である。地域からの要望もあり、将来4車線拡幅部を有効に利用するため、眺望点となる駐車帯の整備を検討しているところである(図-12,13)。

また、当地は歴史・文化・風景を併せ持つ地域である。将来的には会津地方における「日本風景街道」の一つとなる事を地域からも期待されており、猪苗代地域のすばらしい風景を活かした取り組みが実現されればと考えている。

8. おわりに

景観整備の完成形である植栽の効果が見えてくるのは今秋以降である。これらを踏まえ景観整備の評価を検討していきたい。

また、当バイパスの景観整備の今後のあり方(地域との共同・維持管理コスト削減等)を検証し、地域と共に長く継続していける取り組みを構築していきたい。

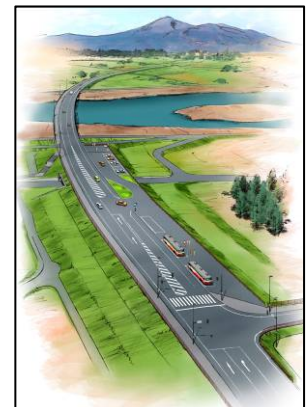


図-12 駐車帯構想パース



図-13 駐車帯検点からの眺望